医学電子書籍の配信コンテンツの実態について

－　個人向け・機関向けサービスの比較を通して　－

伊藤　民雄
実践女子大学図書館

Ⅰ．背景と目的

2016 年の医療従事者の紙・電子書籍の利用についての調査において，状況に応じて，紙・電子書籍の使い分けが行われていることが報告された。医療従事者，医師，看護師，コ・メディカル，医学・薬学・看護学の学生等，にとっては，その使い分けが常識的なことであったとしても，非関係者にとってはその把握が難しい。そこで，本研究は，電子書籍のみに限定し，医療従事者を対象とする個人向け及び図書館向け医学電子書籍サービスで配信されるコンテンツの実態と特徴から，その使い分けに迫ることを目的に行った。

Ⅱ．研究方法

個人向け 1 サービス（A），個人・機関向け 2 サービス（B），機関向けサービス（C），の合計 3 サービスが配信する電子書籍コンテンツのリストを取得し，収録書籍底本の出版年，収録出版社，主題（日本十進分類法 NDC，国立国会図書館件名 NDLSH，医学書総目録分類 JMPAC）から競合分析を行うと共に，3 サービス間の重複具合の確認を行う。リストはサービス提供会社から 2018 年 11 月中に取得した。比較対照としてＣの個人向けサービス（Ｄ）も適宜参照する。

Ⅲ．結果と分析

2018 年 11 月末段階で 3 社配信コンテンツの合計は 7,736 点である。電子版オンリーは 12 点で，残りは紙書籍の底本がある。①底本出版年：ＡとＢの主力が 2010 年以降に対し，Ｃは 2000 年以降のコンテンツも収録されている。提供元は同じだが，Ｃ（機関）とＤ（個人）は配信コンテンツが同一ではない。②出版社：日本医書出版協会会員，看護書販売を考える会会員，それ以外で検討すると，収録出版社（調達先）に偏りが見られる。③主題：JMPAC で検討すると臨床医学系書籍が収録の大多数を占めている。ＡとＢは循環器内科の収録点数が多く，またＡは救急医学も多い。Ｂは整形外科学，脳神経・神経内科学・消火器内科の点数が多い。NDC で顕著なのは，3 サービスとも 494.93（腎：腎炎，腎腫瘍，腎石症，ネフローゼ，人工腎）の点数が多く，特にＣは 120 点以上収録している。NDLSH で顕著なのは，Ｃは看護学の収録点数が多く，Ａは救急医療法，診断学，臨床医学等が多い。④重複具合：ＡとＢの重複，ＡとＣの重複はそれぞれ多いが，ＢとＣの重複はそれほど多くない。三者重複コンテンツは 7,736 点中 2 点であった。

Ⅳ．結論

三者重複具合から電子書籍市場は競合ではなく共存しているように見える。各々のサービスは利用者属性を強く意識して配信され，利用者は業務内容，その時点での課題に応じて使い分けを行っていることが想像される。